

セミナー報告

令和5年度 男女共同参画セミナー③

『いいんだよ』は魔法のことば

～寛容の精神が醸成される社会へ～

令和6年1月20日(土) 10時～12時

講師 ^{さいとう}齋藤 ^{まさと}真人さん (学校法人立花学園 立花高等学校 校長)



【講師プロフィール】

1967年宮崎県生まれ/1990年宮崎大学教育学部卒業

1991年宮崎県内の公立中学校教諭として勤務

2004年学校法人立花学園 立花高等学校に教頭として赴任/2007年同校校長就任

【座右の教育論】「共にいる」

“いいんだよ”の魔法の言葉で不登校生徒の自立支援の教育方針のもと心の癒しに重点を置いた教育実践で、心の拠り所を求める子どもや親たちから支持されています。

《セミナー概要》

できないことを嘆くより、できていることを認めていこう!!

「できるのが当たり前」ではなく、「できなくて当たり前」という前提に立てば、子どもたちがいかに頑張っているのかが見えてきます。引いてはそれが、親であるみなさんの心を軽くすることにつながるのではないかと。 「できる手段を準備する。」 そういった寛容さを社会が見せてあげたら、子どもたちももっと生きやすくなる。そして、誰かを思って行動したことが、実は全員のためになっています。

頑張るって、人それぞれの基準で変わる。褒めるとか叱るとかは、その人の基準で動く。究極でいくと「認めること」だと思う。自分の尺度に当てはめて何かを評価するのではなく、そんなのも取っ払って、相手の存在を認めることがものすごく大事。「こうあるべき」という中に入れたい、漏れている子にいくつもオプションがあってもいいはずだ。

同じであることを前提にした従来の価値観を、決して否定するつもりはありません。日本の教育がうまくいっているところもたくさんあると思うので…。その上で、一人ひとりの多様性に対して、その子が一番生きる独特の支援の形を用意するということがもっとあっていいと思います。「ちゃんとしなさい!」その子はとっくにちゃんとしているのかも…。

「違っていい」と言うより「違っていい事の方が自然。かと言って必ず違わなければならないわけでもない。同じであることも違っていい事も同じように尊い事です。多様性という言葉の落とし穴。らしさの呪縛から脱却。平等＝公平ではない。多様性を認めようとする人たちが、違う考えの大人を批判するのはとても残念なことで、マルかバツかといった対極の図式ではなく、一つの輪っかとしてとらえることで、「あなたの言うことももっともだね。私はこう思うよ」と少しずつつなげていけると思う。そうやってゆっくり変化していくのがいいのではないかと。

大人がしなやかさを失い過ぎてはいないか? 「他人に迷惑をかけたらいや!」 本当にそうでしょうか。自立とは「一人で何でもできること」ではない。100回の「頑張れ」よりもたった一回の「よう頑張ってるね!」これは、子どもに限った話ではなく、生きとし生きるもの全て、自分たちが今頑張っていることに気付いてほしいと思う。そして、「つらい」「苦しい」「助けて」と言える社会こそ、お互いの存在を大切にできる。社会の温かさや寛容さを伝えていくことも私たち大人の役割だと思います。

子どもたちが、ありのままの自分で社会に出る。そして、社会がその子どもたちを認め、受け入れ、支え合う。そうやって、寛容な社会が醸成されていくのだと思っています。

…と、講師の「よかよか」のぬくもりあることばではじまり、「いいんだよ」の心を軽くする魔法をかけられ、「笑いあり、涙あり」の参加者みんなにエールを贈られた感動の講演となりました。

《受講生の感想》 ※抜粋

・感動的ないい映画を1本みた感じでした。先生の表情・話し方・エピソード全て大好きです。きょう、先生とめぐりあって本当にうれしいです。ありがとうございます。こんなやさしい包容力ある先生のいる立花高校の生徒さんは幸せですね。

・多様性という名の格差で生きづらい子どもが多くなったのでは？と感じています。よかよかと言ってあげれる大人が1人でもふえるといいし、ふやせるように話していきたい。

・目からうろこ。価値観は増やすものだと思います。ありがとうございます。

・とてもわかりやすく、楽しく参加することができました。自分も娘と向き合う時に自分の当たり前を押しつけていたと自分を振り返る時間になりました。まずは帰って、娘を抱きしめたいと思います。ありがとうございました!!

・涙あり、笑いあり、トーク術も素晴らしく、あっという間の2時間でした。まずは自分を甘やかし、子ども達へも一言声かけできる余裕をもてたらと思いました。

・涙ながらに話を聞きました。心の病気の話。心の健康がいかに大事か。日頃から思っている事です。

・「いいんだよ」は魔法のことばにみせられて参加したが、きつい時にきついと言いましょ。涙涙の講演でした。自分のことば、考え方に反省しています。ありがとうございます。

・このような講演会は初めてでした。言葉とは本当に「生きる力」だと思います。

・吸い込まれる様なお話に心が洗われました。心を動かされました。これからの生き方に生かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

・いろいろ納得です。悲しくないのに涙が出ます。

・いろいろあたりまえだと思っていたことが、あたりまえではない。多様性を認めあえる社会になるように願います。いろいろ気づかされました。ありがとうございました。

・本当に心の奥底からやさしい気持ちになりました。ありがとうございました。

・とてもいい話し。時間が短いくらいの講演でした。子育ては終わってますが、過去の自分に反省しました。でもこれからも言葉の一言に気をつけたいと思います。

・以前にも聞いたことのある内容でしたが、何度参加しても涙が出ます。子どもが中学校で不登校になっていた時期があったので、その時に「いいんだよ」と言ってあげればよかったと思います。

・2回目の先生のお話でしたが、とても良いお話でした。きつい時は、きついと言っても良いんだと言われて、うれしかったです。

・先生の生徒の皆さんに向き合う姿勢がすばらしいと思いました。少数派であることと多数派であること どちらもほめることが出来るようになりたいと思います。

・子育ての最中で、子どもに対してできない所ばかり注意している毎日で、だめだよなーと思いつつもその時の感情が先行してしまい・・・と、子どもの寝顔を見て反省しては、起きたらまたガミガミ母ちゃんになっています。そうならない様に、今回のようなセミナーを時々聞いては自分を認めつつ、子どものできている事を認めていきたいです。みんなと同じに

できている子もできていない子もみんな尊い。ありがとうございました。たくさん考える事がありました。これからも考え続けられるかな・・・。がんばりますー。

・終始幸せな気分でした。この空間に、真剣に子どもたちのことを考えている人々が集まっているんだなあ。

